

## 公 共 事 業 事 前 評 価 調 書

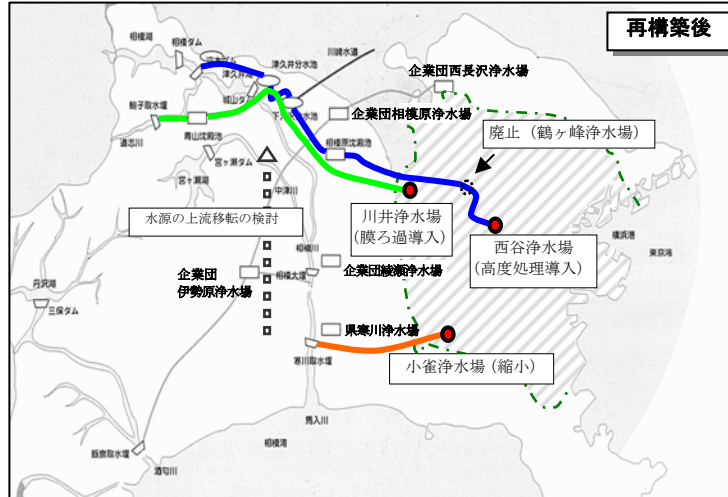
事業概要	事業名	(仮) 鶴ヶ峰配水池築造工事													
	場所 (所在地)	横浜市旭区鶴ヶ峰本町2-39-1													
	事業目的	既存の鶴ヶ峰高区配水池及び低区配水池は、老朽化が進行しており耐震性にも問題があります。浄水施設の再構築に合わせて配水池を更新することにより、 <b>安定給水の確保及び発災時に飲料水を確保する体制の強化</b> を図るものです。													
	事業内容	<b>配水池築造 3池</b> (仮称)鶴ヶ峰上部配水池 1池 (配水池容量4,000m <sup>3</sup> ) (仮称)鶴ヶ峰下部配水池 2池 (配水池容量6,000m <sup>3</sup> ×2池)													
	事業スケジュール	設 計	平成19年度～20年度												
		工事着手予定	平成21年度～平成25年度												
		供用開始予定	平成26年度 (一部施設、平成24年度)												
	総事業費	約20億円													
事業の 必要性	<p>① 必要性</p> <p>横浜市では、今後予想される南関東地震などが発生した非常時においても、飲料水を市民に円滑に給水するため、配水池の水を確保して運搬給水や応急給水などを行う<b>災害時の給水拠点</b>としています。しかし、既設の鶴ヶ峰高区配水池 (貯水容量3,100m<sup>3</sup>) と鶴ヶ峰低区配水池 (貯水容量12,000m<sup>3</sup>) は、老朽化が顕著であり耐震性も基準より低い状況にあります。</p> <p>そこで、両配水池を更新することにより、<b>施設の健全化や耐震性の強化及び貯水時間の増大を図り、安定給水を確保するとともに、非常時においても飲料水を確保する体制を強化</b>します。</p> <p>② 上位計画における位置付け</p> <p>(1) 「長期ビジョン」・「10か年プラン」</p> <p>横浜市水道局は、事業運営の長期的な指針として、概ね20年後の横浜水道の将来像を示した「長期ビジョン」と10年間に実施すべき主要施策を示した「10か年プラン」を平成18年7月に策定しました。その中で高度成長期に大量に整備した水道施設の更新時期が迫っており、21世紀を見通し、施設更新に合わせた<b>水道システムの再構築</b>の長期計画を定め、老朽施設の更新や耐震化、最先端技術の導入などの確な施設整備を行う必要性が挙げられています。</p> <p>(2) 水道システムの再構築</p> <p>1) 自然流下系浄水場の統廃合</p> <p>水質・水圧の面で有利な自然流下系の浄水場を優先的に使うとともに、施設の効率化を図るため、3つの浄水場を2つに統合し、また、水処理を容易にするために1浄水場1系統の水源の水を処理します。鶴ヶ峰浄水場は、老朽化が進み耐震性が低く、処理コストも割高な浄水場であるため廃止します。</p> <table border="1" data-bbox="518 1921 1481 2098"> <thead> <tr> <th>浄水場</th> <th>現状</th> <th>将来</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>川井浄水場</td> <td>道志川・相模湖系統</td> <td>道志川系統</td> </tr> <tr> <td>鶴ヶ峰浄水場</td> <td>相模湖系統</td> <td><b>廃止</b></td> </tr> <tr> <td>西谷浄水場</td> <td>道志川・相模湖系統</td> <td>相模湖系統</td> </tr> </tbody> </table>			浄水場	現状	将来	川井浄水場	道志川・相模湖系統	道志川系統	鶴ヶ峰浄水場	相模湖系統	<b>廃止</b>	西谷浄水場	道志川・相模湖系統	相模湖系統
浄水場	現状	将来													
川井浄水場	道志川・相模湖系統	道志川系統													
鶴ヶ峰浄水場	相模湖系統	<b>廃止</b>													
西谷浄水場	道志川・相模湖系統	相模湖系統													

事業の  
必要性

2) ポンプ系浄水場の縮小

水需要予測によって余剰となった保有水源や施設能力は、水質・水圧の面で不利なポンプ系の浄水場を縮小し水量を適正化します。

浄水場	現状	将来
小雀浄水場	馬入川系統	馬入川系統 (縮小)



(3) 鶴ヶ峰浄水場の再構築

鶴ヶ峰浄水場の浄水処理施設は廃止となり、配水池機能及びポンプ場機能のみ残ります。今後再整備する川井浄水場から鶴ヶ峰の配水池まで送水することにより、鶴ヶ峰の浄水処理施設は廃止可能となります。

既設の配水池は、老朽化が進み耐震性も低いことから更新します。更新する際には、廃止する浄水処理施設跡地を活用しながら新配水池の築造を行います。

③ 適地性

鶴ヶ峰浄水場敷地外に配水池を新築する場合は、新たに用地費が必要になりコスト高となります。また、配水に適した地盤高の用地確保も困難です。

事業の効果

① 安全・安心・安定性

兵庫県南部地震クラスの地震動にも耐えられる配水池になります。また、貯水量を増加することで、飲料水を確保する体制が強化されます。

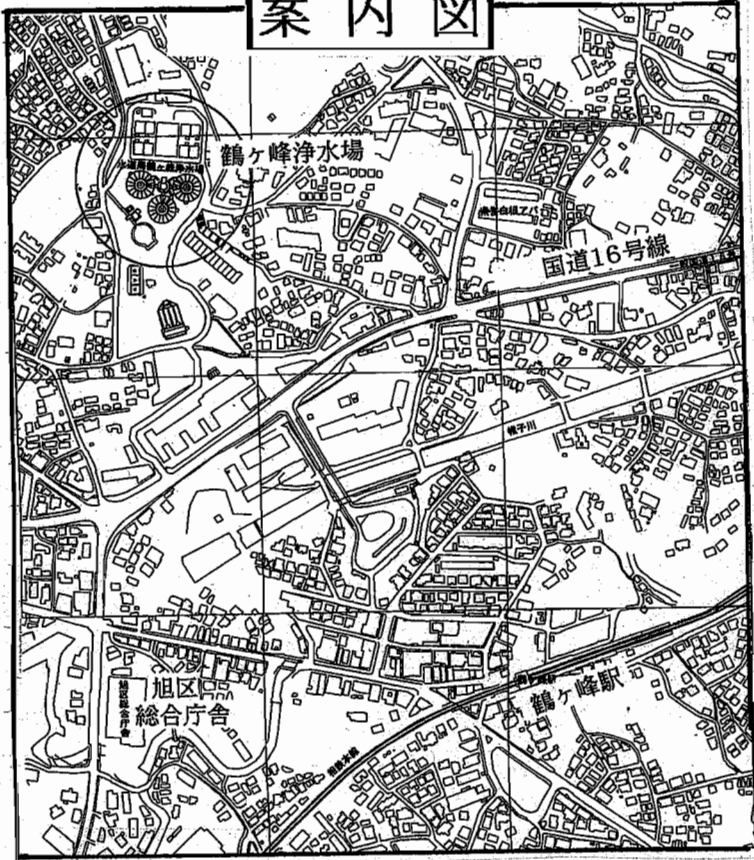
② 費用便益分析 (災害時の飲用水確保)

横浜市水道局では、一般的に配水池容量の20%を災害時確保水量としています。今回整備する16,000m<sup>3</sup>のうち、3,200m<sup>3</sup>に該当する。その分をボトルドウォーター(100円/1L)で行った場合にかかる費用320,000千円/年を便益として計上する。なお、この水は保存飲料水であることから、1年に1回の頻度で交換するものとします。

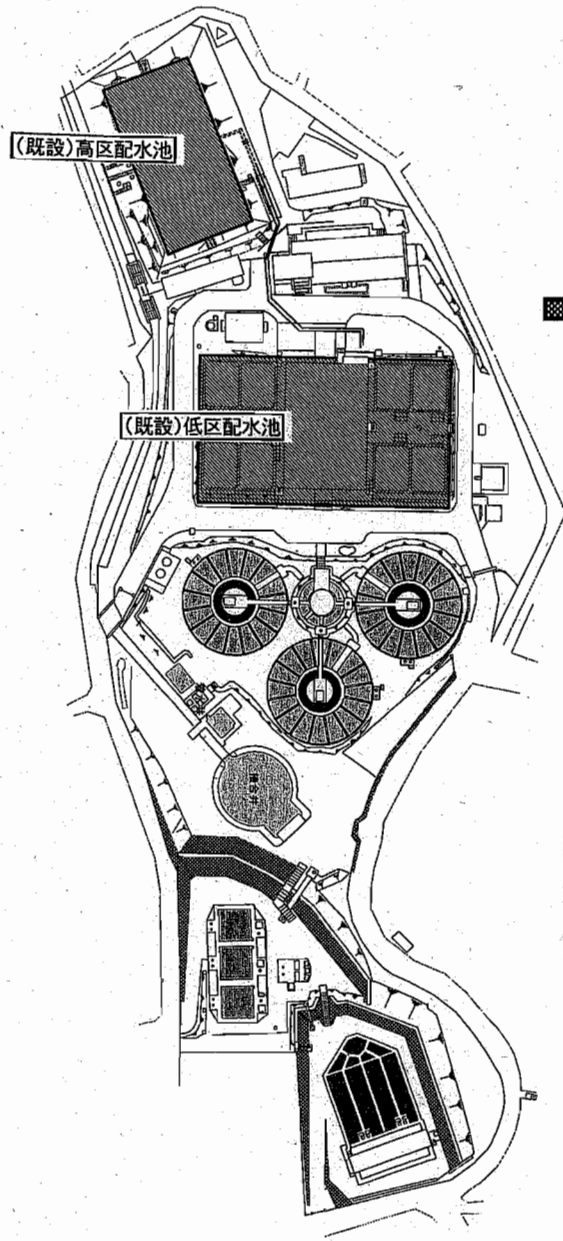
〔様式1〕

事業の効果		項目	費用、便益 (千円)	換算係数	総費用、総便益 (千円)
	費用	事業費	2,000,000	0.98	1,960,000
		維持管理費	9,000	21.48	193,320
		合計 (C)			2,153,320
	便益	災害時飲料水確保	320,000	21.48	6,873,600
		合計 (B)			6,873,600
	費用便益比	B/C			3.19
		参考：日本水道協会「費用対効果分析マニュアル」			
	<p>③ コスト縮減の取組み</p> <p>「公共事業コスト構造改革プログラム」に沿って工事コストの低減に取り組みます。</p>				
環境への配慮	「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に沿って、特定建設資材の適切な分別解体を推進します。				
地域の状況等	「横浜水道長期ビジョン・10か年プラン(素案)」の市民意見募集においても、災害対策の強化が求められています。				
事業手法	基幹施設整備事業として実施します。				
その他					
添付資料	①・無				
担当部署	水道局 建設部 計画課 (Tel671-3119)				

# 案内図



# 鶴ヶ峰浄水場現況図



# 鶴ヶ峰配水池築造図

